

# JICA 中国事務所ニュース 12月号

## 目次

### 【最近のトピックス】

- ◎ JICA 中国事務所プロジェクトリーダー会議を開催 ..... 1
- ◎ 円借款西安市第4污水处理場が試運転 ..... 2
- ◎ 貴州省総合貧困対策モデルプロジェクトの終了時評価を実施 ..... 2
- ◎ 農村養老保険ワークショップが開催されました ..... 3

### 【ニュース】

- 第7回日中地域間交流推進セミナーで新 JICA をアピール ..... 4
- JICA プロジェクトが東京大学の教材になりました ..... 4
- 湖南省で日中文化祭を開催 ..... 5

### 【人の動き・主要行事】 ..... 5

### 【寄稿コーナー】 ..... 6

### 【帰・赴任者紹介コーナー】 ..... 8

### 【中国の動き】 ..... 10

## 最近のトピックス

### ◎ JICA 中国事務所プロジェクトリーダー会議を開催



よりよいプロジェクトのために活発に意見交換しました

日本は勤労感謝の日の振替休日であった11月24日(月)、当事務所では年に一度のプロジェクトリーダー会議が行われました。

今年度の会議では、日本大使館片山公使による講演「現在の日中関係と対中 ODA のゆくえ」や、山浦所長からの統合後の JICA に

ついての説明などの他、「よりよいプロジェクト運営術」をテーマとした簡易ワークショップが行われました。

ワークショップでは、まず、甘肅 HIV エイズ予防対策プロジェクトのグッドプラクティスとプロジェクト開始当初課題を解決していった広州院内感染対策プロジェクトの取り組み事例を元に、C/P の問題意識をうまく引き出し、マネジメント能力を高めるのに成功したポイントを紹介。その後、各プロジェクトの良い点、問題点をあげてもらい改善のポイントを話し合いました。良い点として「優秀、意識が高い」といった点が挙げた一方、「内部情報の共有化ができていない、主体的な活動が見られない」といった点も出て、それぞれのプロジェクトの悩みが共有できました。いろいろな回答がある問題ですが、アプローチする相手をどこに絞るか(問題意識の高い人を発見す

ることが重要)、先方のキーマンを盛り立てる、予算をうまく使うことなどが重要であろうというところで話し合いを終えました。

また、リーダー会議終了後は懇親会を行い、さらに情報共有と親睦を深めました。懇親会ではワークショップの話の続きにも花が咲いていたようです。日本のことわざに三人寄れば文殊の智恵というものがありますが、智恵と経験のいっぱい詰まった専門家の皆さんが集まれば、文殊の智恵も軽く超えられそうです。是非これからもちょくちょく皆さんと集まり意見交換できる場を作っていきたいと思った一日でした。

(改革開放・ガバナンス班 倉科和子)

#### ◎ 円借款西安市第4 污水处理場が試運転



陳宝根西安市長が完成した污水处理場を視察

「西安市環境整備事業」のサブプロジェクトの一つである第4 污水处理場が完成し、11月19日に式典が行われました。

本事業は2001年度の円借款供与案件の一つで、承諾金額は9,764百万円。第4 污水处理場の建設はその事業のサブプロジェクトの1つとして2006年12月19日着工、2007年に構造物の本体工事を終え、2008年に入り、污水处理設備の据付、テストを終了し、10月に処理場入水管と都市污水収集管網とを接合、今般の試運転により、毎日25万トンの污水を処理できるようになりました。これは西安市污水排出総量の1/4を処理できる能力です。当該処理場は主に西安市中心部、北部及び東部の郊外にある生活污水及び工業廃水を対象とし、運転開始後、西安市郊外北東部の水質汚染問題を緩和し、渭河流域

の生態系環境を大きく改善することが期待されています。

式典には、西安市陳宝根市長をはじめ西安市関係者及び污水处理場の建設に関わった設計、施工等機関が参加しました。日本大使館から檜山伸司一等書記官が式典に出席され、「本事業が西安市住民の生活環境の改善に貢献することを祈念します」と挨拶されました。本事務所より岡田実次長、中里太治次長及び呼斯楽所員が参加しました。式典後、市長とともに污水处理場の現場を視察しました。(円借款班 呼斯楽)

#### ◎ 貴州省総合貧困対策モデルプロジェクトの終了時評価を実施

本プロジェクトは中国で一番貧困な地域の一つである貴州省の道真県・雷山県において家庭保健、生計能力強化及び農村実務組織の確立・能力向上を図ることを目的に、2005年から始まったものです。



村民から「リボルビングファンドが役立つ」との声も

今般、来年3月のプロジェクト終了を控え、中間評価の結果がどこまで反映され、プロジェクトの終了時点での成果を確認し、プロジェクト目標の達成状況や効率性、妥当性等を評価するとともに、プロジェクト終了後の着地点を見据えたより効果的なプロジェクト活動につなげるため、終了時評価を実施しました。

住民参加型によるプロジェクト活動を通じ、住民の地域開発や家庭保健に対する自主性の高まりと積極的な効果が見られ、村民の組織化のレベルが高められました。また行政側として各関係部門間の連携による正の相乗

効果や家庭保健を導入口とした総合貧困対策プロジェクトを通して、関係職員や政策担当者の「気づきや発見」が報告されています。これは今後部門間連携の強化、村民の生計向上の促進に貢献するものです。それ以外にも女性の積極的参加、協力活動を通じて日中間の交流と相互理解の促進等も確認され、プロジェクト目標である参加型総合貧困対策モデルがプロジェクト終了時まで達成される見込みとなりました。

今後、プロジェクトの上位目標である貴州省全地域への普及を達成するためには、経験の取りまとめ、政府関連部門の推進によるところが大きいと思われます。モデルが他の地域で活用され、より大きなインパクトを確保するためには中国側の自主努力、政策決定者の判断と決定がより期待されます。

(改革開放・ガバナンス班 林哲浩)

#### ◎ 農村養老保険ワークショップが開催されました！



中国の年金制度の改善提案を行いました

11月11、12の両日、JICAと中国人力資源・社会保障部(以下「人社部」という)との共催により、農村養老保険ワークショップが山東省蓬萊市で開催されました。本ワークショップは開発調査「農村社会養老保険制度整備調査」の活動の一環として、日本側調査団が作成した最終報告書(案)の内容説明、中国政府の制度改革の動向紹介、協力対象地区での試行活動の進捗状況の確認

等を目的としています。

最終報告書案では、年金制度の国際比較、現状調査、試行活動実施の結果を踏まえ、六つの農保制度改善メニューが中国政府に提示されました。日本の国民年金制度創設期に行政の最前線で活躍され、年金実務の第一人者と言われる坪野剛司氏が「最終報告書案の内容に対するコメント」について発表し、50年前に導入された日本の国民年金制度の経験に触れつつ、全員加入の重要性について強調しました。

続いて、中国政府の取り組み状況が紹介されました。現行制度の政策根拠は1992年に民政部が公布した「県レベル農保基本方案(試行)」であり、制度の不備や管理上の問題により1998年に制度が破綻し、人社部に移管されました。人社部は2002年から制度改革を目的とする「新型農保試行活動の指導意見(案)」の準備作業に着手しました。今年の共産党三中全会で農保制度の構築が決定されたことを受け、現行制度の改革に向けた指導意見案の国务院への提出を急ぎ、来年から全国10%の県で新型農保制度の試行を開始することを目指しています。

最後に、八つの協力対象地区の担当者はそれぞれ試行活動の進捗状況、課題、提言について発表しました。地方が直面している課題は、制度の不明確さ、財政投入の不足、管理費の不足、基金管理の困難等にほぼ集中しました。これらの話題をめぐって、参加者の間に活発な意見交換が行われました。

今回の議論の結果を踏まえて、最終報告書案は修正中です。来年1月10日に最終報告書をベースに、開発調査の最終結果を発表する公開セミナーを北京で行う予定です。セミナー結果をまた報告します。

(改革開放・ガバナンス班 鮑迪娜)

## ニュース

### ■ 第7回日中地域間交流推進セミナーで 新 JICA をアピール



円借款資金にて調達された最新型の50t電炉

10月30日、第7回日中地域間交流推進セミナーが山西省太原市にて開催されました。「環境分野における日中間の地域間協力」をテーマとし、両国の政府関係者、自治体関係者等、約130名が出席しました。松沢神奈川県知事を始め、日本側の参加者から、大気汚染対策や水質汚染対策、低炭素社会の構築等について日本の経験・取り組みに係る紹介がありました。

本セミナーでは、2008年10月に誕生した「新 JICA」を PR する広報ブースを設置し、環境分野における有償資金協力、無償資金協力、技術協力などを通じた様々な取組と成果の PR を行いました。松沢県知事をはじめ、山西省外事弁公室の主任等、日中両国の関係者約100人が新 JICA のブースに来訪され、当方から新 JICA が中国で行っている環境面・自治体交流面での取組等について説明を行いました。

31日には、世界最大のステンレス生産企

業「太原鋼鉄集团公司」にて実施されている円借款プロジェクト「太原市環境整備事業(2001年度承諾、承諾額141億円)」のプロジェクトサイト視察が行われ、日系企業から導入された最新の省エネ・環境設備の見学が行われました。本プロジェクトの完成に伴い、年間24万トンの石炭使用量が削減され、太原市の大気環境の改善に大きく貢献することが期待されており、参加者が非常に興味深く中国側関係者の説明に聞き入る姿が見受けられました。

2日間のセミナー参加を通じ、「日中の地域間交流推進」の舞台で新 JICA が果たせる役割は非常に大きいと感じました。新 JICA の活躍を期待して下さい！

(円借款班 黄濤)

### ■ JICA プロジェクトが東大の教材になりました



学生のプロジェクト管理への関心は高い

11月14日の東京大学工学部の講義室のスクリーンに、「日中気象災害協力研究センター」プロジェクトの PDM が大きく映し出されました。東大工学部が5年前に開講した「国際プロジェクトコース」の一環として、「気象」プロジェクトの中間評価の結果が教材として使われたのです。

「気象」プロジェクトは JICA と東京大学が

業務実施契約を結んで実施している案件ですが、総括専門家である小池俊雄教授が昨年9月に中間評価を経験した際、ぜひこの分析手法を将来国際機関やNGO等で活躍したいと考えているエンジニア志望の学生たちに紹介したいと考え、この日の講義が実現しました。「国際プロジェクトコース」は工学部だけでなく文系の学生にも人気の高い講義で、この日も約50名の学生が熱心に評価5項目を始めとするJICAのプロジェクト評価手法を学びました。もしかしたら、将来彼らと一緒に、案件の評価をする日が来るかも知れませんね。  
(環境2班 大久保晶光)

#### ■ 湖南省で日中文化祭を開催



日本語スピーチをするミャオ族の学生  
(バックの富士山と長城に注目！)

11月28・29日に湖南経済涉外学院にて第5回湖南祭りが開催され審査員として参加させていただきました。「湖南祭り」とは湖南省に派遣されていた日本語教師隊員が中心となって2003年に立ち上げた湖南省で日本語を勉強している生徒のための日本語・日本文化祭りです。昨年まで代々の湖南隊員によっ

て受け継がれ、隊員が学校間や日本側と中国側の橋渡しを行ってきました。同省の長沙市に隊員がいなくなった今年からは地域と日本人会によって開かれることになりました。当日はスピーチコンテストや作文コンテストなどが行われ、22校、1700名が集まりました。地域の学校・日本人・日系企業・地元の日本関連企業が一緒になって作り上げたすばらしい大会でした。

開会式では湖南省科技厅と主催校から長年のJICA協力隊の功績に対する感謝の言葉をいただき、観客の皆さんからも大きな拍手をいただきました。また大会中には日本人会会長を初めたくさんの方々から協力隊の功績に対しての賞賛のお言葉をいただきました。

実は、湖南祭りを始めたのは私がかつて隊員だった頃の仲間なのですが、当時、開催に当たり奔走している話をよく聞いていました。その努力の種が5年後の今でも引き継がれ、更に大きな花を咲かせている事に感動しました。隊員時代、私は湖南祭りには何も関わっていなかったのですが、なんだか5年前の自分自身の活動が認められたかのような気分にもなりました。「草の根で活動する隊員の成果というのは派遣中にはあまりみえないが、5年後10年後に実をつけるものだ」という話を隊員時代に何度も聞いており、調整員としても決まり文句のように新隊員に言うてきました。今回はその意味を身を持って感じました。改めて草の根で活動するボランティアの活動はすばらしいと感じました。

(ボランティア調整員 中坊容子)

## 人の動き

## 主要行事

### (1) 主な調査団(派遣中・派遣予定)(12月)

- ・ ダムの再開発プロジェクト事前調査団 (12/7-26)
- ・ 中国商業統計整備プロジェクト現地セミナー(12/7-13)
- ・ 森林・自然環境プロジェクト形成調査団

(12/9-24)

- ・ 統合事務所ヒアリング調査団 (12/17-19)

### (2) 長期専門家・ボランティアの動き(12月)

<長期専門家>

**ア. 赴任**

なし

**イ. 帰国**

- ・ 戸上 善夫(2006.10.30~2008.11.1)  
中国安全生産科学技術能力強化計画
- ・ 山本雄子(2006.5.16~2008.12.15)  
広州市院内感染対策プロジェクト

湖北省 十堰市太和病院

2008/12/22~2010/12/21

- ・ 坂井 良依 看護師

湖北省 湖北民族学院医学付属病院

2008/12/22~2010/12/21

**イ. 帰国**

- ・ 阿部 亮子 看護師

北京市 中日友好病院

2008/3/27~2008/12/24

**<ボランティア>(12月)**

**ア. 赴任**

- ・ 梶巻正男 環境管理  
遼寧省瀋陽市 瀋陽環境保全局  
2008/12/22~2009/12/22
- ・ 嘉部尚恵 日本語教師  
吉林省 通化師範学院  
2008/12/22~2010/12/21
- ・ 尾崎 みつ子 日本語教師  
海南省 海南大学  
2008/12/22~2010/12/21
- ・ 内田 陽子 日本語教師  
江蘇省 江都職業高級中学  
2008/12/22~2010/12/21
- ・ 中 博美 日本語教師  
内モンゴル オルドス市杭錦旗中学  
2008/12/22~2010/12/21
- ・ 尾崎 由美 看護師

**(3)事務所員等の動き (12月)**

1. 日本人所員

**ア. 赴任**

なし

**イ. 帰国**

長安 美恵(2008.12.4)

2. ナショナルスタッフ

**ア. 採用**

なし

**イ. 退職**

なし

**(4) 12月の主要行事**

- ・ 循環型経済現地国内研修(12/14-21)

**寄稿 コーナー**

**(1) 日中友好病院でのボランティア活動を終えて**

私は2008年3月から12月まで、看護師隊員として北京市の日中友好病院に派遣され、この日中友好病院の国際医療部という外国人患者対応部門で、主に「外国人に対する看護サービスの向上」という部分において活動してきました。

でも日本人以外の外国人対応なんて私も初めてのこと。しかもすっかり中国語に染まってしまった私の頭の中には、英語なんてどこかに行ってしまった。それでも、頭の中にわずかに残っている英語力を駆使し、なんとか外国人の患者さんとのコミュニケーションもできるように。改めて中国に来て自分には適応

力がついたな、と思います。

いつだったか、欧米人患者さんに病院サービスについて意見を伺っていて、そしてその話の中で出てきたのが、外国で暮らす「ガイジン」ゆえに受ける対応の話。陰で悪口を言われるということではなく、簡単に言うと「スルーされる」ということ。

例えばお店で注文をすると、絶対あるはずなのに「それはないです」と言われる。選べるはずなのに何も聞かれず勝手にチョイスされる、などなど。

それは当然おかしいよねと思う反面、お店の人の気持ちもわからないではないなと思ってしまう自分もいる。

対応する方は、言ってもどうせ通じないだ

ろうという恐れから先に逃げてしまうというか。うまく説明できないから最初から「ない」「できない」と言ってしまう。またはその後のやりとりに自信がないから、黙って適当に選んでしまう。



日中友好病院の同僚に囲まれた阿部さん

もちろん正しいやり方ではないのだけど、そういう「内気なアジア人」像を想像して、まあちょっと仕方がないのかな、と考えてしまう。

しかし当然患者さんのほうはそうは思っただけでなく、こうした対応を受けることを、むしろ「ガイジンだと思ってなめられるんだよね」とバリバリ強気な解釈をされております。これも当然と言えば当然なのですが。

そういえば私も、中国に来た当初、某カフェチェーンでオーダーが通じなくて後回しにされ、さらに注文したのと違うものが出てきてへこんだ。ファストフードでも、何度ドリンクを勝手にコーラにされたことか。

こういうスルー対応というのは、悪意からではなくほとんど無意識に行われるものだと思います。意見を寄せてくれた欧米人の患者さんは、日本人である私も外国人として同じ扱いを受けている仲間のように話してくれましたが、私自身一応看護というサービスを提供する側の人間として、耳が痛い感じがしました。あとで同僚と一緒に、外国人を対応するにあたって気をつけなきゃねと話しました。

私の活動は指導なんてほど遠く、同僚と一緒に学ぶ日々だったと思います。今年北京ではオリンピックが開催され、国をあげてサービスや外国人対応などに注目がおかれまし

た。一緒に学んだことがすこしでも根付くといいなと思います。

この「スルー」や「逃げ腰」という姿勢は、外国人とか、サービス業とかに限られるのではなく、我々日本人も含めて同じ言語を話すもの同士、他の部分でも共通することであり、人間関係や人生経験においてよくない結果を生むのではないかと思います。

例えば看護で言えば、患者さんに質問されてもそれに答えられるだけの知識や根拠、自信がないから「無理です」と答えてしまったり。国際協力の場面で言えば、外国人ときちんとやりあうだけの語学力に自信がないのを棚に上げて、きっと分からないだろう、分かってももらえないだろうという勝手な解釈により、独りよがりの活動をしてしまったり。自分を振り返って反省します。

日本で看護師をしていたときの私は、たいして自信や知識もないのにちょっと経験を積んだからといって満足し、課せられる勉強や研究から逃げ、そのくせ単調な生活にうんざりしながら働いていたように思います。でも今ならもっと謙虚に、前向きに看護に取り組むだけではなく、中国に来る前より看護という仕事をずっと「楽しい」と思って働けるような気がする。

私にとって、中国でのボランティア経験というのは、逃げ腰ではなく前向きに取り組むことから生まれた、まだ知らなかった自分との出会い、自分にとって新しい分野を学ぶ楽しさとの出会い、国籍を問わず共に前向きに生きる友人との出会い、そして外から改めてみた日本の看護と看護の「たのしさ」との再会、といった出会いの日々だったと言えます。本当に良い経験をさせてもらったと思っています。

(青年海外協力隊 日中友好病院看護師  
阿部亮子)

## (2) 大連日本人学校の児童が ODA について学びました

10月16日、大連日本人学校中学部が国

際理解授業の一環として北京のJICA事務所竹内様、長安様から講義を受け、その後、ODAで建てられた浄水場を見学しました。これが、今年の中学部3年生の総合的な学習の時間、「中日の関係 ～ODAの視点から～」のスタートです。



ODAについて沢山勉強しました

もともとこの中学部は何度か国際理解授業を行っており、また、在外の日本人学校であるという特色から、国際的な感覚や知識は国内の中学生よりも高いといえます。しかし、ODAについて講義を受けたり、調べたりするのは全員が初めてでした。最初は「ODAって何？」という状態からスタートし、少しずつ理解を深めていきました。調べていくうちに、日本が中国に行っている援助の額の大きさや、自分たちが住んでいる大連にも援助が行われていることに驚き、どんどん具体的なプロジェクトや、活動している人たちのことをもっ

と知りたいと思うようになりました。そこで、11月17日には大連で活動する青年海外協力隊の中新井様や、四川大地震で緊急援助隊として現地入りをした経験をもつ林様を講師として招聘し、お話を聞くことが出来ました。

これらの活動をもとに、12月5日、中学部3年生の8人がそれぞれ別々の具体的なODAのプロジェクトについてパワーポイントを使い発表しました。青年海外協力隊のような技術協力について調べた生徒は、日本語教師の活動や看護師の活動について、授業の様子などを具体的に紹介しました。四川大地震の時の緊急援助について調べた生徒は日本の援助隊が入ったことで人々の日本に対する意識が変わったことをうまくまとめました。そして黄砂や砂漠化、また都市の環境改善などの大掛かりなプロジェクトについて調べた生徒は、そのプロジェクトでの都市の変化を写真を使いながら発表しました。それぞれ、今まで学習してきたことを具体的に発表するだけでなく、自らの考察も入れたレベルの高い発表を行うことが出来ました。いつの日か生徒たちが国際社会に貢献できることを感じた発表でした。

(大連日本人学校教諭 西塚健)

## 帰・赴任者紹介コーナー

### (1) 長期専門家 山本雄子

約三年間、広州一院で実施されてきたプロジェクトの終了の幕が間もなく下ろされます。

その開幕から閉幕までの一切を、業務調整員という立場から観てきたものにとって、今の気持ちを一言で表現するのは難しい。しかしこの間の様ざまな人間模様そして荒地から幾つもの技術協力の花が咲く様子を観ることができたことは、このプロジェクトにかかわった者の一人として幸運でした。

スタート当初は決して順調な滑り出しとは言いがたく、大きな問題や困難が立ちはだかっていました。それを泥縄式ではあったが短期専門家、中国事務所関係者そしてCP等の励ましを得て、プロジェクト現場に踏みとどまり、最後まで私自身がモチベーションを維持し業務を遂行できたことは、本当に良かったと思います。この三年間、私にとっても、そして中国側CPにとっても日々、チャレンジの連続でした。



プロジェクトは様々な職能集団(プロ集団)によって運営されています。

問題にぶつかった時、孤軍奮闘する必要はなく、専門家を巻き込み、中国事務所を巻き込みそして中国側CPを巻き込むことが大事だと思います。

このプロジェクトを支えていただいた大勢の日中の方々に心より感謝申し上げます。



(広州市院内感染症対策プロジェクト業務調整員 山本雄子)

## (2) 中国事務所員 奥田久勝



中国でお世話になった専門家の皆様、関係者の皆様、事務所の皆様、ありがとうございました。

私が赴任したのは2005年5月で、抗日デモが吹き荒れた直後でした。中国はまさに激動の時代を迎えており、先進国への階段を一步一步進んでいっている状況でした。そんな中、社会の矛盾として大きな問題となっている貧困問題や地域間の格差といった分野を担当し、これらの問題の困難さと、これに真正面から取り組む中国政府の奮闘を垣間見ることができました。中国における農村改革は、ある意味で胡錦濤主席が指摘されて

いるように中国の歴史における重大事件だと思のですが、私が勤務したのは、ある程度の準備期間を経て矢継ぎ早に政策が打ち出され、またその成果が出つつある時期でしたので、そのような歴史的な瞬間に立ち会えた(?)というのは、非常に貴重な体験だったと思っています。

他方で、3年目に入った頃から、地震局との長い付き合いとなった防災、公安/司法、労働安全、食品の安全から環境問題などの案件を担当しましたが、最後に出張した先々で、「人間の安全や尊重についての意識が高まってきた」という声を聞いて、帰国する直前には、オリンピックを経たこの国が大きく変わりつつあることを実感しました。

事務所では、上司や同僚と遅くまで残業した後、一緒に家路に向かう日々が多かったのですが、そんな事務所の皆さんやナショナルスタッフ、専門家の皆様に支えられた3年半でした。改めて御礼申し上げます。

(改革開放・ガバナンス班 奥田久勝)

## (3) 中国事務所企画調査員 長安美恵



皆様、大変お世話になりました！1996年に留学で中国に滞在して以来、今回企画調査員としての赴任は私にとって久方ぶりの里帰り？でした。10数年前は、中国がこのような凄まじい勢いで発展するとは夢にも思っておらず、2年前に赴任した頃は見るもの全てが新鮮で、これまで自分がなじんでいた中国とは別世界を体験しているような感じでしたが、無事に楽しく2年間を過ごせたのも皆様のご協力とご支援のおかげです。

今年8月にはオリンピックを開催するまでに経済成長を遂げる一方で、あらゆる環境問題が深刻化している中国において、この激動期に環境管理分野の仕事に携わることができたのは、本当に良い経験になりました。大好きな中国を去るのは、後ろ髪を引かれる思いもありますが、今度北京を訪れる際は、北京の大気汚染が改善されて青空と太陽が見られることを願いつつ…。それでは皆様お元気で。(企画調査員 長安美恵)

しやり、皆さんと協力していい仕事をしていきたいと思っています。

私生活の面では、子どもと父を連れての初めての在外赴任で、わからないこと、不安なことも多いのですが、お子さんのいらっしゃる先輩職員が多く、いろいろと親切に教えていただいております、心強く思っています。

中国語を早く覚え、公私ともに充実した中国生活になるといいな～、と思っていますので、よろしくお願いいたします。

#### (4) 中国事務所員 足立佳菜子

11月21日に着任しました足立佳菜子です。今まで中国には旅行で1回来たことがあるだけで、土地勘もなく、中国語は你好、謝謝くらいしかわからず、冷や汗が出ます。ただ、こちらでの担当が森林・自然環境保全ということで、事務所に来る前にいた地球環境部で担当していた分野なので、馴染みやすいかな、と少しホッとしています。また日本語が堪能なナショナルスタッフの方もたくさんいらっ



(環境1班 足立佳菜子)

## 中国の動き

### 父親になりました！ ～中国の出産事情～

プライベートなことで恐縮ながら・・・11月26日に子供が誕生し、父親になりました！今回は中国の出産にまつわる病院事情を紹介します。

2008年はオリンピックベビーブームで、どの病院でも妊婦の行列が見られました。定期検査と出産に際し、私達家族が選んだ病院は大規模な総合病院ではなく、中規模(中国語で表現すると、2甲級と言います)のT病院でした。T病院を選んだ理由は家に近いこと、

わが娘 チョウチョウちゃん

入院する際に個室があるということでした。それに中規模病院ですので、長時間待たされなくても検診してもらえるというメリットもあり



ました。

11月26日早朝2時、家内の陣痛が始まり、T病院に駆け込みました。入院手続きをしましたが、空いているのは定員4名の部屋のみという状況でした。仕方なくその部屋に入り、個室は順番待ちとなりました。当日午後16:30、赤ちゃんが無事に誕生しました。3,400グ

ラムの元気な女の子です！4人部屋の病室では、一人の赤ちゃんが泣き出すと他の赤ちゃんが次々と泣き始め、部屋中、池のカエル(?)のような泣き声が響き渡ります。同室にいる各家族の事情は異なりますが、子供が生まれる喜びは変わりません。わが子を抱く瞬間、父親としての幸福感が一層高まります。4人部屋であるため一家族当りのスペースが限られていることから、私と義理の母が交代して家内の介護をすることにしました。中国では一般的に両親が出産に関わる手伝いをしてくれます。ただ、自分(夫側)の親が手伝いに来る場合は嫁姑戦争(?)に発展する場合がありますので注意が必要です(これは世界共通の問題だと思います)。同室の隣のベッドでは、妊婦の両親と義理の両親が交代で看病していましたが・・・世界共通の問題が生じていました。

さて、私の家内の回復は早く、個室に移る前に順調に退院することができました。妊婦さん4名とその家族が同じ部屋で共同生活し、プライバシーが全くない状況でしたが、それぞれの家庭事情を踏まえ、互いに出産や育児に係る意見交換を行ったり、助け合ったりして、楽しい体験となりました。

家内が妊娠してから赤ちゃんが生まれるまでの間、家内は本当に大変で、女性の偉大さを改めて実感しました。「これからもっと家内を大切にしよう」と、思いを新たにしました。これから、赤ちゃんを立派な人に育てるべく、父親である私の責任も一段と重くなりますが、それを励みに変えたいと思います。

(環境2班 邢軍)

=====

\* 皆様からの情報提供、大歓迎です。また、本紙に対するご意見、ご提案などもいただければ幸いです。いずれも中国事務所沈 曉静(shenxiaoqing.cn@jica.go.jp)あてにお願いいたします。

=====

\* その他お知らせ

- JICAのホームページ:    チャイナ ライブラリー (和文・中文)
- > <http://www.jica.go.jp/china/library/news/index.html>
  - > <http://www.jica.go.jp/china/chinese/library/01.html>
- チャイナ トピックス (和文・中文)
- > <http://www.jica.go.jp/china/topics/index.html>
  - > <http://www.jica.go.jp/china/chinese/topics/index.html>